



2014年12月期 中間決算概況

2014年8月6日

会社名 サントリーホールディングス株式会社
 代表取締役 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐治 信忠
 問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 濱岡 智

URL <http://www.suntory.co.jp>

広報部 TEL (03)5579-1150
 TEL (06)6346-0835

(百万円未満切捨て)

1. 2014年6月中間期の連結業績(2014年1月1日～2014年6月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2014年6月中間期	1,108,931	18.0	64,401	32.2	62,481	35.0
2013年6月中間期	939,753	8.0	48,728	28.1	46,271	26.7

	中間純利益		1株当たり中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	
	百万円	%	円	銭	円	銭
2014年6月中間期	17,199	△ 41.8	25	21	-	-
2013年6月中間期	29,556	131.6	43	32	-	-

(参考) 持分法投資損益 2014年6月中間期 △562百万円 2013年6月中間期 △4百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2014年6月中間期	4,184,895	1,035,996	18.0
2013年12月期	2,374,070	1,056,726	32.3

(参考) 自己資本 2014年6月中間期 755,013百万円 2013年12月期 768,011百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2014年6月中間期	17,262	△ 1,430,563	1,165,238	169,270
2013年6月中間期	50,929	△ 51,924	64,156	294,859

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金		
	中間期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭
2013年12月期	-	17 00	17 00

(注) 2013年12月期配当の内訳 普通配当12円 特別配当5円

3. 2014年12月期の連結業績予想(2014年1月1日～2014年12月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円	銭
通期	2,440,000	19.6	167,000	32.0	143,000	18.6	37,000	△81.1	54 23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(参考1) のれん等償却前 2014年12月期通期(予想)

216,000	43.3	192,000	32.6	76,000	△64.6
---------	------	---------	------	--------	-------

(参考2) 調整後EBITDA倍率 2014年12月期通期(予想) 5.2

*調整後EBITDA倍率=劣後債務資本性考慮後ネット有利子負債(借入金+社債-現金・預金他)÷調整後EBITDA(ビーム サントリー社通年ベース)
 D/Eレシオ 2014年12月期期末(予想) 1.2 *D/Eレシオ=劣後債務資本性考慮後ネット有利子負債÷純資産

経営成績

1. 当中間連結会計期間の概況

当中間連結会計期間(2014年1月1日～2014年6月30日)の世界経済は、一部に弱さが見られるものの、全体としては緩やかに回復しました。わが国経済においては、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動がありましたが、緩やかな回復基調が続きました。

こうした中サントリーグループは、「ザ・プレミアム・モルツ」「金麦」「角瓶」「山崎」「白州」「サントリー天然水」「BOSS」「PEPSI」といった主要ブランドのマーケティング活動強化を中心に、積極的な取り組みを展開しました。

また5月には、ビーム社の全発行済株式を取得し、新たにビーム サントリー社が誕生しました。

その結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高1兆1,089億円(前年同期比118.0%)、営業利益644億円(同132.2%)、経常利益625億円(同135.0%)、中間純利益172億円(同58.2%)となりました。

〈飲料・食品セグメント〉

サントリー食品インターナショナル(株)は、ブランド強化により需要を喚起し、国内・国際事業両輪で更なる成長を図りました。また同社グループ全体で、各社の知見を活かした品質の向上や、コスト革新による収益力強化にも取り組みました。

国内事業において、「サントリー天然水」は、“清冽でおいしい水”“ナチュラル&ヘルシー”をブランド独自の価値として訴求し、ブランド全体の販売数量が前年同期を大幅に上回りました。4月に発売したフレーバーウォーター「サントリー 南アルプスの天然水&朝摘みオレンジ」は、当初の年間販売目標を上方修正しました。

「BOSS」は、主力商品におけるブランド強化活動が奏功し、販売数量が大きく伸長しました。

「PEPSI」は、3月に中味・パッケージをリニューアルした「ペプシネックス ゼロ」の話題性ある広告宣伝活動も奏功し、販売数量が前年同期を上回りました。

健康志向の高まりを背景に注目を集める特定保健用食品は、「伊右衛門 特茶」などが好調に推移し、販売数量が前年同期を大幅に上回りました。

国際事業においては、各エリアにおける重点ブランドの更なる強化やコスト削減を実施しました。

欧州では、フランスやスペインにおいて「Orangina」^{オレンジナ}「Schweppes」^{シュウエップス}、英国において「Lucozade」^{ルコゼード}「Ribena」^{ライビーナ}等の主力ブランドに集中したマーケティング活動を実施しました。4月より本格的に活動を開始した Suntory Beverage & Food Europe Limited は、欧州全体での成長に向けて、生産や販売をはじめとする経営基盤の最適化に取り組んでいます。

オセアニアでは、主力のエナジードリンク「V」^Vにおいて、新たなフレーバーの新商品を発売する等、ブランドの活性化に取り組みました。

アジアでは、経済成長が続く各国において事業基盤の強化や、新商品の投入等による事業拡大に積極的に取り組み、インドネシアの「MYTEA」^{マイティー}「ウーロン茶」、ベトナムの「TEA+」^{ティープラス}「ウーロン茶」等、サントリーブランド商品の販売数量が着実に伸長しました。

米州では、ノースカロライナ州を中心にペプシブランドの更なる販売強化に加え、営業や物流等、事業効率の改善を進めました。

これらの結果、飲料・食品セグメントの売上高は、5,946億円(前年同期比115.5%)となりました。

〈ビール・スピリッツセグメント〉

当セグメントには、ビール事業とウイスキーやRTDなどのスピリッツ事業をもつサントリー酒類(株)のほか、5月から新たにビーム サントリー社が連結対象として加わりました。

サントリー酒類(株)は、“プレミアム”をキーワードに掲げ、需要創造に向けた価値提案活動を強化しました。

ビール事業は、国内で3,292万ケース^{※1}(前年同期比102.1%)と過去最高の販売数量を達成しました。また、当社ビール類のシェアも、15.5%(課税数量ベース)で過去最高となりました。

「ザ・プレミアム・モルツ」は、ブランド力の向上やお客様との接点拡大に取り組むなどマーケティング活動を強化した結果、761万ケース(前年同期比103.2%)となりました。

新ジャンルでは、「金麦」ブランドが1,704万ケース(前年同期比109.5%)と好調に推移しました。

ノンアルコールビールテイスト飲料No.1^{※2}ブランド「オールフリー」も、312万ケース(前年同期比104.9%)と伸長しました。

海外では、アジア・オセアニアなどで「ザ・プレミアム・モルツ」の販売を強化しました。

スピリッツ事業は、主要ブランドが好調に推移し、前年同期比107%の売上となりました。

ウイスキーは、国内で前年同期比104%と伸長しました。

「角瓶」は、2月にコミュニケーションを刷新するとともに食との相性訴求活動を強化し、前年同期比109%と大きく伸長しました。

国産プレミアムウイスキーは、「山崎」「白州」「響」ブランドが好調に推移し、前年同期比122%と大幅に伸長しました。4月には世界的な酒類コンペティションで「響12年」がカテゴリー最優秀金賞を受賞しました。

輸入ウイスキーは、「ジムビーム」「メーカーズマーク」などのバーボンウイスキーを中心にお客様接点の拡大を図りました。

海外では、欧米を中心に「山崎」「白州」「響」ブランド、アジアで「角瓶」の積極的なマーケティング活動を展開し、さらなる浸透に取り組みました。

RTDは、前年同期比107%と好調に推移しました。

「-196°C ストロングゼロ」は、〈DRY〉などが好調で前年同期比110%と大きく伸長しました。

「ほろよい」は、新商品の積極的な投入などにより、前年同期比107%となりました。

ハイボール缶は、前年同期比115%と大きく伸長し、市場を牽引しました。

RTS^{※3}は、「ふんわり鏡月」が4月に年間計画を上方修正するなど極めて好調に推移しました。

ビーム サントリー社は、世界最大のスピリッツ市場である米国を中心に、世界 No.1^{※4}バーボンウイスキー「ジムビーム」や、「メーカーズマーク」といった主要プレミアムブランド、および「サウザ」などのテキーラが好調に推移し堅調な売上となりました。ビーム サントリー社は、年内を目途にサントリー酒類(株)のスピリッツ事業と統合する予定で、世界第3位のプレミアムスピリッツメーカーとなります。

これらの結果、ビール・スピリッツセグメントの売上高は、3,295億円(前年同期比125.9%)となりました。

※1 大瓶換算(1ケース=633ml×20本)・ノンアルコールビールテイスト飲料含む

※2 インテージMAI調べ ノンアルコールビールテイスト飲料ブランド 累計販売金額
2013年1月~12月(全国SM/CVS/酒DS/一般・業務用酒店計)

※3 RTS(Ready To Serve):グラスにそそぐだけでカクテルなどの本格的な味わいが気軽に楽しめるお酒

※4 2013年販売数量実績(IMPACT NEWSLETTER February 1&15 2014 号より)

〈その他セグメント〉

サントリーワインインターナショナル(株)は、国産ぶどう100%ワイン“日本ワイン”が好調に推移しました。5月には国際ワインコンクール「レ シタデル デュ ヴァン」で「登美白 2012」が「日本ワイン特別賞」と「金賞」を同時に受賞しました。また、「酸化防止剤無添加のおいしいワイン。」も引き続き伸長しました。

サントリーウエルネス(株)は、「セサミン」シリーズや「グルコサミン&コンドロイチン」、スキンケア化粧品「F.A.G.E.^{エフアージュ}」等が好調で前年同期比113%の売上となりました。

サントリー(中国)ホールディングス有限公司は、前年同期比154%の売上となりました。

ハーゲンダッツジャパン(株)は、ミニカップ商品を中心に好調に推移し、前年同期を大きく上回りました。

(株)ダイナック、(株)プロントコーポレーション、井筒まい泉(株)などが伸長し、外食事業は好調に推移しました。

これらの結果、その他セグメントの売上高は、1,848億円(前年同期比113.3%)となりました。

なお、国内売上高は7,363億円(前年同期比104.5%)、海外売上高は3,726億円(同158.4%)となりました。

当社は、創業以来、積極的に事業を展開するとともに、創業の精神である『利益三分主義』に基づき、文化・社会貢献、環境活動などにも取り組んでいます。また、『水と生きる SUNTORY』というコーポレートメッセージのもと、社会と自然との共生を目指したさまざまな活動を展開しています。

東日本大震災の復興支援活動は、「サントリー東北サンさんプロジェクト」として、「漁業の復興支援」「未来を担う子どもたちの支援」「文化・スポーツを通じた支援」を柱に実施しています。当期は、新たに「チャレンジド・スポーツ(障がい者スポーツ)への支援」10億円を含む20億円の拠出を決定、震災以降累計で108億円の規模で支援活動を展開しています。

環境活動では、消費電力量国内最小^{※5}の自動販売機の導入を進めるなど、環境負荷低減を推進しました。また、持続可能な地球環境を次代へ引き渡すことを目的に、2050年に向けた「サントリー環境ビジョン2050」を策定するとともに、「2020年目標」を新たに設定しました。水源涵養活動を展開しているサントリー「天然水の森」においては、国内工場で使用する地下水量の2倍の水を涵養するため、2020年までに面積を12,000haに拡大します。

※5 2014年4月現在 国内主要自販機メーカーの主要セレ25セレに於いて、年間消費電力量国内最小の420kWh/年を実現 (サントリーフーズ(株)調べ)

2.通期の見通し

通期の業績予想につきましては、ビーム サントリー社が連結対象になったことを受け、2014年2月に発表した内容から次の通り修正しました。

2014年12月期の売上高2兆4,400億円(前年同期比119.6%)、営業利益1,670億円(同132.0%)、経常利益1,430億円(同118.6%)、当期純利益370億円(同18.9%)。

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2013年12月31日現在)	当中間連結会計期間 (2014年6月30日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
(資 産 の 部)			
I 流動資産	1,007,834	1,111,655	103,821
現金及び預金	418,654	140,295	△278,358
受取手形及び売掛金	287,242	362,978	75,736
たな卸資産	224,134	456,128	231,993
その他の	78,679	154,303	75,623
貸倒引当金	△875	△2,049	△1,174
II 固定資産	1,364,861	3,071,987	1,707,126
1.有形固定資産	527,269	613,372	86,103
建物及び構築物	148,760	176,442	27,682
機械装置及び運搬具	180,555	219,619	39,063
工具、器具及び備品	67,709	68,119	409
土地	94,760	105,503	10,742
その他の	35,482	43,686	8,204
2.無形固定資産	650,413	2,260,288	1,609,874
のれん	409,293	1,002,371	593,077
商標権	184,942	1,200,274	1,015,331
その他の	56,177	57,642	1,465
3.投資その他の資産	187,178	198,327	11,148
投資有価証券	116,302	120,956	4,654
その他の	73,162	79,244	6,082
貸倒引当金	△2,285	△1,873	412
III 繰延資産	1,374	1,251	△123
資 産 合 計	2,374,070	4,184,895	1,810,824

(注)

有形固定資産に対する 減価償却累計額	728,112	792,886	64,774
-----------------------	---------	---------	--------

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2013年12月31日現在)	当中間連結会計期間 (2014年6月30日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
(負 債 の 部)			
I 流動負債	760,029	1,578,562	818,532
支払手形及び買掛金	93,703	131,739	38,035
電子記録債務	106,106	116,744	10,637
短期借入金	83,428	904,655	821,226
1年内償還予定の社債	108,566	31,591	△76,974
未払酒税	46,412	36,509	△9,903
未払消費税等	10,791	15,318	4,527
未払法人税等	34,392	17,176	△17,216
未払金	122,239	120,484	△1,755
未払費用	62,329	96,421	34,092
賞与引当金	12,616	14,724	2,108
その他	79,442	93,198	13,755
II 固定負債	557,315	1,570,336	1,013,021
社債	64,700	335,979	271,279
長期借入金	322,387	706,459	384,072
退職給付引当金	11,000	26,008	15,007
役員退職慰労引当金	298	621	323
繰延税金負債	80,104	414,208	334,104
その他	78,824	87,058	8,233
負債合計	1,317,344	3,148,899	1,831,554
(純 資 産 の 部)			
I 株主資本	711,624	717,209	5,584
資本金	70,000	70,000	—
資本剰余金	△21,109	△21,109	—
利益剰余金	666,066	671,651	5,584
自己株式	△3,332	△3,332	—
II その他の包括利益累計額	56,386	37,803	△18,582
その他有価証券 評価差額金	20,611	20,027	△584
繰延ヘッジ損益	1,374	216	△1,157
為替換算調整勘定	34,400	17,560	△16,840
III 少数株主持分	288,714	280,982	△7,731
純資産合計	1,056,726	1,035,996	△20,729
負債純資産合計	2,374,070	4,184,895	1,810,824

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間	増 減
	〔 自 2013年1月 1日 至 2013年6月30日 〕	〔 自 2014年1月 1日 至 2014年6月30日 〕	
	金 額	金 額	金 額
I 売 上 高	939,753	1,108,931	169,178
II 売 上 原 価	463,891	558,733	94,842
売 上 総 利 益	475,862	550,198	74,335
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	427,134	485,797	58,662
営 業 利 益	48,728	64,401	15,673
IV 営 業 外 収 益	3,035	6,722	3,687
受 取 利 息	427	573	145
受 取 配 当 金	1,478	4,626	3,147
雑 収 入	1,128	1,522	393
V 営 業 外 費 用	5,491	8,642	3,150
支 払 利 息	4,137	6,692	2,555
雑 支 出	1,354	1,949	595
経 常 利 益	46,271	62,481	16,210
VI 特 別 利 益	3,537	203	△3,334
固 定 資 産 売 却 益	41	168	127
受 取 保 険 金	1,051	—	△1,051
組 織 再 編 益	2,319	—	△2,319
そ の 他	125	34	△91
VII 特 別 損 失	4,919	14,374	9,454
固 定 資 産 廃 棄 損	1,601	1,900	299
買 収 関 連 費 用	—	8,733	8,733
組 織 再 編 関 連 費 用	2,010	2,751	741
そ の 他	1,308	988	△319
税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益	44,889	48,310	3,421
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	18,170	22,889	4,718
法 人 税 等 調 整 額	△6,894	△1,537	5,357
少 数 株 主 損 益 調 整 前 益	33,613	26,958	△6,654
少 数 株 主 利 益	4,056	9,759	5,702
中 間 純 利 益	29,556	17,199	△12,357

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
	〔 自 2013年1月 1日 至 2013年6月30日 〕	〔 自 2014年1月 1日 至 2014年6月30日 〕
	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	44,889	48,310
減価償却費	30,691	37,920
のれん償却額	11,887	18,121
受取利息及び受取配当金	△1,906	△5,200
支払利息	4,137	6,692
固定資産廃棄損	1,601	1,900
売上債権の増減額(△は増加)	△13,079	△41,208
たな卸資産の増減額(△は増加)	△21,676	△21,756
仕入債務の増減額(△は減少)	9,971	23,210
未払酒税及び未払消費税等の増減額(△は減少)	△1,128	△11,784
その他	8,127	8,924
小計	73,514	65,130
利息及び配当金の受取額	2,016	4,118
利息の支払額	△3,683	△5,397
法人税等の支払額	△20,918	△46,590
営業活動によるキャッシュ・フロー	50,929	17,262
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△41,692	△42,234
有形及び無形固定資産の売却による収入	243	1,992
投資有価証券の取得による支出	△237	△2,708
投資有価証券の売却及び償還による収入	164	92
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△13,914	△1,386,896
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	4,071	-
その他	△559	△809
投資活動によるキャッシュ・フロー	△51,924	△1,430,563
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの増減額(△は減少)	52,194	804,044
長期借入れによる収入	29,976	414,779
長期借入金の返済による支出	△5,282	△11,301
社債の発行による収入	-	60,305
社債の償還による支出	△950	△79,500
リース債務の返済による支出	△1,507	△1,465
配当金の支払額	△7,504	△11,598
少数株主への配当金の支払額	△2,770	△10,026
その他	△1	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	64,156	1,165,238
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	3,587	△1,296
V 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	66,748	△249,359
VI 現金及び現金同等物の期首残高	228,110	418,630
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	294,859	169,270

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能で、経営陣が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は持株会社制を導入し、持株会社である当社の下、製品・サービス別の事業分野別に事業会社等を設置しています。各事業会社等は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社グループは事業会社等を中心とした製品・サービス別のセグメントから構成され、「飲料・食品事業」、「ビール・スピリッツ事業」の2つを報告セグメントとしています。

各報告セグメントと「その他」の区分に属する主な製品・サービスの種類は以下のとおりです。

飲料・食品……………清涼飲料、健康飲料、加工食品 他
 ビール・スピリッツ……………ビール類、ウイスキー、焼酎、RTD 他
 その他……………中国事業、ワイン、健康食品、アイスクリーム、外食、スポーツ、花 他

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前中間連結会計期間(自 2013年1月1日 至 2013年6月30日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	ビール・スピリッツ	その他	計	調整額(注)1	中間連結財務諸表計上額(注)2
売上高						
外部顧客への売上高	514,942	261,651	163,159	939,753	—	939,753
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,121	1,507	5,556	10,185	△ 10,185	—
計	518,064	263,159	168,715	949,938	△ 10,185	939,753
セグメント利益	36,519	13,381	13,735	63,636	△ 14,908	48,728

当中間連結会計期間(自 2014年1月1日 至 2014年6月30日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	ビール・スピリッツ	その他	計	調整額(注)1	中間連結財務諸表計上額(注)2
売上高						
外部顧客への売上高	594,611	329,502	184,817	1,108,931	—	1,108,931
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,069	1,880	5,287	11,237	△ 11,237	—
計	598,680	331,383	190,105	1,120,169	△ 11,237	1,108,931
セグメント利益	43,444	20,842	15,080	79,366	△ 14,965	64,401

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。それぞれの金額は次のとおりです。

前中間連結会計期間
 セグメント利益の調整額 △ 14,908 百万円
 各報告セグメントに配分していない全社費用 △ 14,943 百万円
 セグメント間取引消去 35 百万円

当中間連結会計期間
 セグメント利益の調整額 △ 14,965 百万円
 各報告セグメントに配分していない全社費用 △ 14,998 百万円
 セグメント間取引消去 32 百万円

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。